

## 「エレベーター事故」と「入札制度」 ～「信頼からの撤退」に対する考察④～

6月3日、東京都港区のマンションで、16歳の少年が、エレベーターから降りようとしたところ、突然、エレベーターが扉を開けたまま上昇し、床の部分と天井に挟まれ、死亡したという事故が起こった。この施設は区営住宅で、同エレベーターは2年半で少なくとも20件の不具合が発生しており、この事件に端を発し、全国のエレベーターで不具合が発生している事実が、連日報道されている。

この事故がエレベーター自体の問題なのか、メンテナンスの問題なのかはともかく、エレベーターそのものが、乗り物だという事であるという事が今回の事故で改めて感じた。移動手段としての乗り物であるのだ。他の交通とは一線を画しているが、これは事実なのである。

その交通手段の導入に対して、行政は、「入札制度」を取っている。一円でも安く申し込んだ所に権利が発生する、入札というのはそういうものである。今回のエレベーター会社を設置した行政も全国に多くあるというが、入札制度で導入している所も存在していると報道されている。

では、横浜市はどうなのだろう。横浜市も、入札制度で業者を決めている事は多い。交通においても行われている。事業を運営するに当たって、なるべく安く導入していく事は、必要なのだろうが、それが安全を脅かす事があってはならない。

地下鉄の駅にはエレベーターの設置が行われているが、不具合によっての閉じこめの事例が数例あった。やはり、こういう事故があった以上、慎重にならざるを得ない。横浜市は行政の性格上、各エレベーター会社が入っているという。現在は、ご多分に漏れず入札が導入されていると聞いているが、大丈夫なのだろうか、と市民の目線では必ずそう思うのだ。

ある地方の行政では、事故を起こしたエレベーター会社の入札価格があまりにも安いため、国土交通省に理由を聞いたそうである。横浜市も当然、それ位の事はするだろうと思っているが、市民からの信頼を失うのは、こういう側面にも存在するのである。公営なのだから、安全は当たり前なのですから。

(つづく)